

---

# 空が蒼いな 第二章

友ちゃん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

空が蒼いな 第一章

### 【Z-コード】

Z5910M

### 【作者名】

友ちゃん

### 【あらすじ】

前回の続き、もう終わりかもしれん。

春の朝、おはよう。・・・おはよう。大学一年の僕は、いつも一人ぼっちだ。いつも不器用で、情けない。はあ。また、どじやつちやつた。男の子と言うより、女の子と言う感じなくらい鈍感で、こんな性格が自分でも、認められない。恥ずかしかつた。すごく恥ずかしい。もう、穴に入りたい。僕の存在を、忘れてほしい。・・・学校に帰ると、緊張が解け、凄く疲れ果てていた。・・・なんでかな、緊張しすぎて飛ばしてたからか恥ずかしさがまだ消えず、どつと疲れが増した。アルバイトを見つけて、一ヶ月、僕は身も心もズタズタになる気分だつた。どうしてこんな気持ちになるんだ。誰か、助けて。・・・ん?そこには誰かいる気がする。オーラが凄い。えつ?なんで、こんなに悲しんでるの?オーラが凄い。・・・話しかけてみよう。あなたは誰ですか?・・・えつ?徐々に顔が見えてくる。そして、くつきりと顔が見えそつになつた次の瞬間、・・・体がやけに熱い。・・・眠い。ばたつ。そして、顔が見えずに眠気に負け、その顔がどこかにいなくなつてしまつ。助けて。もう、僕を、一人にしないで。翌朝目が覚めると様子がおかしい、感覚が変だ。おはよう。お、おはよう!えつ?おはよう。どうしてこんなに明るい口調になつたのか知らないが、気持ちはまともだ。・・・学校で一人寂しい気持ちになる。・・・つらいのか?

うん。・・・!振り返るとどこにもいない。・・・俺の言う通りにすると、樂になれるぞ。・・・誰だ?その声ははつきり聞こえるが誰も反応しない。・・・もしかして・・・心の中にいる?お前の名前は、誰ですか?い、いやその・・・。悪魔です。・・・悪魔だつて?しかし、全然悪そうには見えない。でも、天使だつたとしてもうさんくさい。えつ?何でここにいるの?・・・お前の魂を見て、救いたくなつてきた。離れろと言つても、離れられない。運命なんだ。・・・う、んめい・・・どうして僕の・・・中に入つてくれ

るんだ？自分は心にパニックを起こした。人の事氣にする前に、自分の事を何とかしろ！・・・え、どうしてそんなに僕の事を感じる？・・・入つてくるなー！そう叫んで僕は学校から逃げるようになつて行つた。・・・離れろ！・・・いやだ。離れてくれ！はなせ！・・・でも、どうしてさつきは心の中に・・・ふつ。ふふつ。どくん。お前、もしお前と一緒にになれなくとも、入つてしまつた以上どういう意味だかわかるか？僕が死ぬときはお前も死ぬ時だ。・・・まさか、どうして？他の性格いい人に対つけばいいじゃないか？なんで、僕なんかに・・・。お前・・・。だつてお前が悲しそうだつたから。・・・そんなことない。心を見るな！でていけ！・・・全然無理だつた。心がショックで心の声さえも聴きたくない。・・・喋りたくない。バイトも、こんな状態じゃ無理だ。・・・もうやめよう。僕は恨みたかった。・・・自分に入つてくるな。 はーあ。もう泣きたい。どうして、心さえも支配されるのだろう・・・。そういうえば、名前紹介してなかつた。名前は？僕は夏です。夏・・・。私は、名前なんかあなたに教えません。・・・なんだつて？そんな理屈、通るのか？あなたより年上ですか、そういうことくらいしか言えない。・・・分かつた。もう、お前はそうやつて人を見下していればいいさ！・・・そういうあなたこそ、心の底から叫べばいい。何をしたいだとか、この自分に変わりはないとか、なぜ、他人に言える勇氣がない。・・・それは、人が、怖いから。ふーん。そうやつてお前はいつも逃げるんだ・・・。逃げる？僕が？違う！そんなわけない。みんなが嫌いだから、・・・だから、距離を置いているんだ。それはいいわけだ。みんなの目を避けている。お前は、人の事の何かを見たくないだけさ。・・・どうして、こう心の底まで見抜いたようなことを・・・。あなたに何が分かるんだ？僕の何が分かる？もう、かかわるな。あ、そう、別にいいですよ。・・・はあ。しばらく心の声、通称悪魔はいなくなる。そういうえば、リンの約束があつた。一緒に花を見ようつて言つてくれたつけ。・・・ちょっと憂鬱だけど、明日が待ち遠しい。・・・ひどかつたかな、あの言

葉。夜、目が覚めると、悲しい自分がいた。そして、雪の中をさまよっている。・・・助けてくれるのは、誰？ そう思いながら。はつ！ 苦しい。憎悪を感じて目が覚めると、自分の存在を認めてくれたら、僕は・・・。そんな希薄な望みあるわけない。考える方がバカなんだ。そう抑え込んで、みんなとの関係がだんだん分からなくなり、僕は自分を気がつけば出し始めているのかかもしれない。家庭状況が悪く、全然本音が話せないのも知っている。それを見抜かれアドバイスを言われる。それが、つらく悲しい。でも・・・。何でこんなに悲しいのか。自分は若くかつこいい内に死んでしまえば何よりの幸せなんじゃないかと最近思い始めた。・・・実際は、何がしたいんだろう・・・。あとがきすいません。感覚で読んでください。友ちゃん先生と言っていますが初心者です。ど素人ですので、読んでいただければ幸せかも。前回と同じで初一回目です。

(後書き)

初心者です。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5910m/>

---

空が蒼いな 第二章

2010年10月8日14時14分発行